令和８年度第１回　板橋グリーンカレッジ運営協議会議事録

日時：令和８年７月 28 日（火）15 時
会場：グリーンカレッジホール教室２

（事務局）	皆様、こんにちは。本日はお忙しい中、ご出席くださいまして誠にありがとうございます。ただいまより、令和８年度第１回板橋グリーンカレッジ運営協議会を開会いたします。議長、副議長の選出まで、会の進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。 本協議会は、板橋グリーンカレッジ大学校及び大学院事業の円滑な運営を図ることを目的に開催するものでございます。 会議録を作成する関係から、議事の内容を録音させていただきますのでよろしくお願いいたします。 それでは、議題に入る前に資料の確認をさせて頂きます。 **資料１　板橋グリーンカレッジ運営協議会委員委嘱名簿** **資料２　令和７年度　板橋グリーンカレッジの実施結果について** **資料３　令和７年度　板橋グリーンカレッジ後期アンケート結果** **資料４　令和８年度　板橋グリーンカレッジの受講状況について** **資料５　令和８年度　後期講義概要** **資料６　板橋グリーンカレッジＤＸ推進状況について** **資料６　別紙１　動画配信状況** **資料６　別紙２　卒業レポート書式案** **資料７　令和９年度　板橋グリーンカレッジ大学院のコース編成について** **資料８　令和９年度　板橋グリーンカレッジカリキュラム案** **参考資料　板橋グリーンカレッジ運営要綱** **令和８年度板橋グリーンカレッジ大学校・大学院実施要領** **板橋グリーンカレッジ運営協議会運営要綱** でございます。不足がありましたら事務局までお知らせ願います。 よろしいでしょうか。それでは、本協議会は、令和８年５月 31 日付で、すべての委員の任期が満了となりました。これに伴い、令和８年６月１日付で新たに就任された委員の皆様への委嘱状を机上配布しておりますので、ご確認ください。 なお、任期は令和 10 年５月 31 日までの２年間となります。 **【委嘱状交付】**
（事務局）	それでは、改めまして委員の皆様のご紹介をさせていただきます。 資料１「板橋グリーンカレッジ運営協議会委員委嘱名簿」も併せてご覧ください。 本協議会は、運営協議会運営要綱第３条に基づきまして、区内の大学関係者、学識経験者、区民の代表、板橋グリーンカレッジＯＢ会の代表、区職員の合計８名で構成しております。

	【委員紹介】
（事務局）	それでは、これより令和８年度第１回板橋グリーンカレッジ運営協議会を開会します。 議事進行に先立ちまして、正副議長の選出を行います。
	【議長選出】
（事務局）	次に、副議長の選出に移ります。
	【副議長選出】
（事務局）	それでは、早速議事に移ります。議事進行につきましては、議長よろしくお願いします。
（議長）	初めに、本協議会運営要綱第６条第２項により、定足数は半数以上となっておりますが、本日は、７名の委員の出席がございますので、有効に成立していることを申し伝えさせていただきます。 また、本日は傍聴者はおりません。あわせてご報告いたします。 それでは、お手元に配布しております次第に従って、議事を進めてまいります。 まず、資料２「令和７年度板橋グリーンカレッジの実施結果について」の報告を事務局よりお願いします。
（事務局）	それでは、資料２をご覧ください。 「令和７年度板橋グリーンカレッジの実施結果」について報告いたします。 まず項番１「令和７年度の実施状況」ですが、１年生は、令和７年度の受講者が 217 名で、133 名の方が今年度２年生へ進学となりました。 ２年生は、令和６年度１年生からの進学者が 177 名で、164 名の方がご卒業されました。 続いて、大学院は、受講者が 49 名で、45 名の方がご卒業されました。 令和７年度につきましては、入学式・卒業式ともに実施することができ無事に全ての課程を終えることができました。 続いて、項番２「板橋グリーンカレッジ公開講座」について報告いたします。 令和６年度から全世代を対象とした「板橋グリーンカレッジ公開講座」を実施しております。 令和７年度は、東京国際工科専門職大学　講師の**石山　謙（いしやま　けん）**氏をお招きし、「地球科学」をテーマに講演いただきました。 募集定員 100 名のところ、92 名の方にご応募いただき、60 歳未満の方は 13 名、60 歳以上の方は 66 名といった内訳でした。今回は高校生以下の受講料を無料としたところ、20 代未満の方７名に応募いただきました。また、当日は、83 名の方にご参加いただきました。 講義につきましては、受講者からは大変ご好評をいただき、講義が終わった後も、先生のところに質問者の列ができており、皆様大変熱心に受講されており、非常に良い講義を実施していただきました。 資料２の説明は以上になります。

（議長）	資料２の説明が終わりました。ご質問・ご意見のある方はご発言ください。 よろしいでしょうか。それでは、続きまして、資料３「令和７年度後期アンケート結果について」の説明を事務局からお願いします。
（事務局）	それでは、資料３をご覧ください。 「令和７年度板橋グリーンカレッジ後期アンケート結果」について報告いたします。 グリーンカレッジでは、１年生及び２年生の半期日程終了時、及び大学院の全日程終了時にアンケートを取っておりまして、資料はその結果をまとめたものとなっております。 まず、１年生のアンケート結果についてご説明いたします。１ページをご覧ください。 設問１では、受講した目的について質問しております。選択肢③「日々を有意義に過ごすため」、①「学習意欲を満たすため」の順で多く、その結果として、設問２「受講して得られたことについて」では、選択肢①「知識を得ることができた」、選択肢③「生活のリズムや充実感がうまれた」という方が多く、学習意欲や日々の充実感等満足度が高い結果となりました。 続いて、設問４では年代、設問５ではご職業について質問しております。年齢制限をなくしたことにより、50 代以下の方もいらっしゃり、10 代の方も受講していることが分かりました。属性として専業主婦（夫）、パート・アルバイトの方が多くいらっしゃることが分かりました。平日の日中の講義が多いため、会社員、学生等は少ない結果となっております。 続いて、３ページ目まで設問６で各講義の満足度について質問しております。どの講義もおおむね大多数の方にご満足いただけた結果となりました。 また、３ページ目では、設問７で今後受講したい分野について質問しております。「歴史」、「心理学」、「健康」が特に多い結果となっております。 各講義の満足度と受講したい分野について、いただいたご意見をもとに今後の講義内容を精査してまいりたいと考えております。 設問８は、グリーンカレッジに関するご意見・ご要望でございます。グループワークや講義日程等についてご意見をいただいておりますので、今後改善できるよう検討してまいりたいと思います。 次に、２年生のアンケート結果についてご説明いたします。５ページをご覧ください。 設問１では、受講した目的について質問しております。選択肢①「学習意欲を満たすため」、③「日々を有意義に過ごすため」が多く、その結果として、設問２「受講して得られたことについて」では、①「知識を得ることができた」、③「生活のリズムや充実感がうまれた」という方が多く、学習意欲や日々の充実感等満足度が高い結果となりました。 続いて、設問４では年代、設問５ではご職業について質問しております。50 代以下の方も受講されており、１年生と同様に専業主婦（夫）、パート・アルバイトの方が多くいらっしゃることが分かりました。 以降、７ページ目まで設問６で各講義の満足度について質問しております。どの講義もおおむね大多数の方にご満足いただけた結果となりました。 また、７ページ目では、設問７で今後受講したい分野について質問しております。「歴史」、「文学」、「心理学」が特に多い結果となっております。各講義の満足度と受講したい分野について、いただいたご意見をもとに今後の講義内容

	を精査してまいりたいと考えております。 設問８は、グリーンカレッジに関するご意見・ご要望でございます。電子申請についてご意見をいただいており、こちらについては今後も検討を継続してまいりたいと思います。 次に、大学院のアンケート結果についてご説明します。 まず、８ページをご覧ください。こちらは文化文学コースのアンケート結果でございます。 設問１では、大学院を受講した感想を伺っております。皆様が１年間熱心に取り組まれたことが窺える感想となっております。 設問２では、受講して得られたことについて質問しております。選択肢１「知識を得ることができた」選択肢３「生活リズムや充実感がうまれた」の順に多い結果となりました。 設問３では、講義の満足度について質問しております。80%以上の方から満足との声をいただいております。 設問４では、来年度もグリーンカレッジを受講したいかを質問しております。こちらについては、90%以上の方から受講したいとの声をいただいております。 設問５では、大学院終了後の活動予定について質問しております。選択肢３「趣味等のサークル活動」選択肢④「スポーツや健康維持のための活動」の順に多い結果となっております。 最後に、設問６では、今後受講したい分野を質問しております。「歴史」「文学」「文化史」が特に多い結果となっております。 次に、10 ページをご覧下さい。こちらは社会生活コースのアンケート結果でございます。 文化文学コースと同様のアンケートを実施しており、設問１「大学院を受講した感想」では、皆様から個人研究となったことについて、様々なご意見をいただいております。 設問２「受講して得られたこと」については、選択肢①「知識を得ることができた」選択肢③「生活リズムや充実感がうまれた」の順に多い結果となっております。 設問３「講義の満足度」については、皆様から満足の声をいただいております。 設問４「来年度のグリーンカレッジを受講したいか」については、皆様「受講したい」という結果となっております。 設問５「大学院終了後の活動予定」については、選択肢⑤「教養講座への参加」選択肢③「趣味等のサークル活動」の順に多い結果となっております。 設問６「受講したい分野」については、「社会学」「健康」「農業」「経済」が特に多い結果となっております。 次に、12 ページをご覧ください。こちらは健康福祉コースのアンケート結果でございます。 こちらも同様のアンケートを実施しており、設問１「大学院を受講した感想」では、皆様から大学院を通して仲間や友達が出来たとのご感想をいただいております。 設問２「受講して得られたこと」については、選択肢①「知識を得ることができた」選択肢②「友人ができた、交友関係が広がった」の順に多い結果となっております。 設問３「講義の満足度」については、皆様から満足の声をいただいておりま

	す。 　設問４「来年度のグリーンカレッジを受講したいか」については、ほとんどの方が「受講したい」という結果となっております。 　設問５「大学院終了後の活動予定」については、選択肢⑤「教養講座への参加」選択肢④「スポーツや健康維持のための活動」の順に多い結果となっております。 　設問６「受講したい分野」については、「健康」「歴史」「哲学」「板橋学」「心理学」が特に多い結果となっております。 皆様からいただいた意見を基に、大学院についてもカリキュラムを検討させていただきたいと思います。 　資料３の説明は以上となります。
（議長）	資料３の説明が終わりました。ご質問、ご意見のある方はご発言ください。 　よろしいでしょうか。それでは、続きまして、資料４「令和８年度板橋グリーンカレッジ受講状況について」の説明を事務局からお願いします。
（事務局）	それでは、資料４をご覧ください。 「令和８年度板橋グリーンカレッジ受講状況について」ご説明させていただきます。 　受講状況について、令和４年度からの推移を掲載しております。 　受講生募集については、例年１月中旬に行っており、今年度の人数は５月１日時点のものとなっております。 　まず、項番１「板橋グリーンカレッジ大学校（１年生）」をご覧ください。 　令和５年度までは 60 歳以上の方を対象としておりましたが、令和６年度からは年齢要件を撤廃して募集しております。定員 300 名のところ、181 名の方にご応募いただきました。 　続いて、項番２「板橋グリーンカレッジ大学校（２年生）」をご覧ください。 　定員は、聴講生を含め、430 名となっております。１年生からの進学者が 130 名、聴講生が 187 名となっております。 　続いて、項番３「板橋グリーンカレッジ大学院」をご覧ください。 　大学院は、定員が各コース 30 名で計 90 名、今年度の入学決定者数は 61 名となっております。コース別の入学者数につきましては、文化文学コースが 30 名、社会生活コースが 20 名、健康福祉コースが 11 名となっております。文化文学コースについては、募集時に定員を超過したため、抽選を実施いたしました。 　続いて、項番４「受講者年代内訳」をご覧ください。 　大学校については 20 代から 90 代まで幅広い世代の方に受講いただいた結果となりました。大学院については、50 代の方２名に受講いただいております。 　資料４の説明は以上となります。
（議長）	資料４の説明が終わりました。ご質問、ご意見のある方はご発言ください。 　よろしいでしょうか。それでは、続きまして、資料５「令和８年度板橋グリーンカレッジ後期講義概要」の説明を事務局からお願いします。
（事務局）	それでは、資料５をご覧ください。 「令和８年度板橋グリーンカレッジ後期講義概要について」ご説明させていただきます。

	まず１年生からご説明いたします。１ページをご覧ください。 受講生は、前期は 12 講座から９講座、後期は 11 講座から９講座を選択し、年間 18 講座を受講することができます。 今年度から新しく取り入れた科目として、１ページの講座番号１「スポーツ学」、２ページの講座番号６「デザイン」、講座番号７「ジェンダー」がございます。 また、講座番号２「福祉」の日本大学理工学部まちづくり工学科　特任教授の八藤後 猛（やとうご たけし）先生、講座番号３「文学」の大東文化大学文学部英米文学科　准教授の日野原 慶（ひのはら けい）先生、講座番号４「社会」の大東文化大学社会学部社会学科　教授の塚本 正文（つかもと まさふみ）先生、講座番号５「心理学」の東洋大学社会学部社会心理学科　教授の松田　英子（まつだ　えいこ）先生、講座番号６「デザイン」の株式会社ワンストローク　代表取締役の駒形 あい（こまがた あい）先生、講座番号８「音楽」の帝京大学付属八王子高等学校　教諭の岡本　正成（おかもと　まさなり）先生、講座番号 10「哲学」の東京家政大学短期大学部　准教授の鵜殿 篤（うどの あつし）先生には初めてご登壇いただきます。 続いて、２年生の講義概要についてご説明いたします。５ページをご覧ください。 ２年生につきましては、前期・後期ともに９講座の中から３講座を選択し、年間６講座を受講することができます。 ２年生では、生涯学習を促進する多種多様なテーマについて、より専門的な内容を学ぶために、各講座は３回の連続講座となっております。 講座番号２「哲学」の大正大学学修支援センター　専任講師の朴 輪貞（ぱく ゆんじょん）先生、講座番号３「地理」の駒澤大学文学部地理学科　准教授の西山　弘泰（にしやま　ひろやす）先生、講座番号４「音楽」の明治学院大学文学部芸術学科　准教授の和田 ちはる（わだ ちはる）先生、講座番号５「健康」の東京家政大学栄養学部栄養学科　教授の小林 理恵（こばやし りえ）先生には初めてご登壇いただきます。 次に、８ページをご覧ください。 板橋区教育委員会事務局では、令和９年３月 13 日に「MIRAI SCHOOL いたばし OPEN CAMPUS 2027」というイベントの開催を予定しております。地域とともに育つ学校（ＳＣＨＯＯＬ）～みんなで支える　子ども・おとなの学びと成長～をテーマに、学校教育や社会教育など、板橋区教育委員会が行う様々な教育について、皆様に知っていただくイベントとなっております。 当イベントにグリーンカレッジも参加を予定しております。グリーンカレッジの事業紹介や、大学院の卒業生の方をお招きし、実際に研究内容を発表していただく場を作りたいと考えております。こちらについては、現在検討中ですので、第２回の運営協議会で詳細を報告させていただきます。 資料５の説明は以上となります。
（議長）	資料５の説明が終わりました。ご意見、ご質問のある方はご発言ください。
（委員）	過去にグリーンカレッジで何度か登壇したことがあり、その中の１回で東武練馬駅のすぐ近くにある大東文化会館で講義をしたことがあるのですが、その際に受講生から気分が変わっていいという意見を貰いました。昼休みのときだと学食が混むのであまり受講生の人数が多いと良くないかもしれないが、15 時 30 分に講

	義が終わって、学食を食べて帰るなどもいいかもしれない。講義の場所は既に決まっているのでしょうか。
（事務局）	後期については場所が決まっております。
（委員）	決まっているのであればいいのですが、関係性のある大学のキャンパスでの講義を実施できるかもしれないので、その辺りは検討していただけるといいと思います。
（事務局）	ありがとうございます。次回の運営協議会までに、来年度前期の講義について検討させていただきます。
（委員）	大学院を今受講していますが、とてもワクワクする提案だと思います。場所を変えて講義を受けると、色々な話題も広がりますし、雰囲気が変わることで受講生の気持ちも変わってくると思います。今回の大学院もコース毎に机の並べ方が違い、文化文学コースはコの字型、社会生活コースは５人ずつのボックス席に座っています。１、２年生の時は全員前を向いて授業を受けていたんですが、今のご提案はすごく新鮮に感じます。教室が違うだけでも会話も変わります。もちろん授業内容も大切なんですが、そういったことを考えていただくと楽しくなるんじゃないかと思います。学校の授業ですから楽しいという表現は正しいかわかりませんが、やはり楽しいということもとても大切なことだと思います。
（事務局）	ありがとうございます。場所やレイアウトの変更について、伺ったご意見を基に事務局の方でも検討を進めてまいりたいと思います。
（委員）	大学側も地域貢献というのは非常に考えているところなので、このような取り組みは大学側はウェルカムだと思いますので、今後考えていく必要があると思います。 あと、今日学生にも伝えた話なんですが、文学というのは最初は音楽みたいに楽しいという字を当てようとしたようです。しかし、その前に文楽という言葉があったために、学問の学の字になったようです。文学というものには、本当は楽しいという字をあてるのが適切だったのではないかなと思います。
（議長）	他には何かありますでしょうか。
（委員）	資料３に戻りますが、グリーンカレッジ大学校及び大学院の方へのアンケートで、設問１の目的のところで、選択肢に「仲間づくり・交流のため」というのがあり、それに対して次の設問２で「友人が出来た、交友関係が広がった」とあります。１年生、２年生のアンケートではあまり友人が出来たという回答が多くありません。ただ、その一方で大学院の方ではこの回答が多いコースもあります。 この違いは何なのかというと、大学院は先ほども意見が出ましたように、グループでの活動や受講生同士が話をする機会があると思います。アンケートの自由記述を見ても、受講生同士が話をする機会を設けてほしいといった意見もあるようです。 前にも言ったような気もするのですが、是非講師の先生方にそうした機会を授業の中で入れていただけるようお願いをしていくというのはどうでしょうか。

	先生方に意識してカリキュラムも作成していただくというのも良いのかなと思います。
（委員）	私も今日はそのテーマについて話したいと思っていましたが、実際に１年生のときには、講義終了後ほとんどの受講生はすぐに帰ってしまうんですね。それが２年生になると１科目が３回あり、大体の人は毎回同じ場所に座りますから、そうすると「この間はどうも」といった感じで連続性がある分繋がりが出来ていくんですよ。大学院は人数が少なくて一緒にいる時間が多いということで、仲間づくりにつながる。私も大学院でいろんな友達が出来て、下の喫茶店なんかで必ず１～２時間ダベリングするわけです。それがとても楽しくて、これまでの先生も必ず誘っているんですよね。１年生の時は３人の先生と一緒に行きましたが、先生方はお忙しく、次の授業があるからと先に帰ってしまわれるのが残念です。それを無理に誘うことは出来ませんが、先生から「講義終了後お時間がある方はここで授業の内容についてお話をしませんか」という誘いがあると、集まってくる受講生はいると思います。 私が家政大学のオープンキャンパスに行った時にもそういう体験があり、講師の方が講義終了後にフリートークをやりましょうと言って、私たちが休憩から戻ってくると、イスと机の並び方が口字型に代わっていました。そこで色々な話をして、そのあと皆で喫茶店にも行きました。友達が出来るというのはグリーンカレッジにとっても大事なことで、それがそのままＯＢ会の入会に繋がっていくんだろうと思います。ＯＢ会の人数が少なくなってきたと聞きましたが、私が大学院に行った時にも２人くらいを誘いました。 私がやっていた仕事の業界では「仕掛け」というんですが、座り方を工夫したり、コミュニケーションがとりやすいような仕組みみたいなものがあったりするともう少し楽しくなるのかなと、この３年間で感じています。以上です。
（事務局）	ご意見ありがとうございます。講義終了後の部分については、講師のご厚意という部分が非常に大きいのですが、そういった部分も含めて、講師選定の際にはこのようなご意見があったということでお伝えさせていただければと思います。
（議長）	他によろしいでしょうか。それでは、続きまして、資料６「板橋グリーンカレッジＤＸ推進状況について」の説明を事務局からお願いします。
（事務局）	それでは、資料６をご覧ください。 「板橋グリーンカレッジＤＸ推進状況について」ご説明させていただきます。 項番１をご覧ください。令和７年度第２回運営協議会でご説明しました、板橋グリーンカレッジ専用ポータルサイトの運用状況についてご説明します。 まずは①ですが、受講申込みについては、令和８年度受講生募集より運用を開始しております。これにより、従前は受講申込み後結果通知まで約１ヶ月の期間を要しておりましたが、約２週間に短縮された結果となっております。 また、ポータルサイトの運用開始に合わせ、履修科目選択を先着順とさせていただきました。これにより、受講生は申し込み後即座に履修科目選択結果を確認できるようになっております。 次に、②出欠登録ですが、こちらについては令和８年度前期課程より運用を開始しております。運用開始前は、講義直前に受付に受講生が集中するなどの問題がありましたが、本運用によりそのような問題は解消されております。

	出欠登録については、Android 端末を使用している受講生の画面が固まり操作不能となる不具合が発生しており、一部事務局が出欠登録を代理登録することがございました。こちらについては、7 月上旬にポータルサイト事業者が機能改修を行い、以降本不具合は発生しておりません。 次に、③講義アーカイブ配信については、今年度はテスト運用として、講義終了後に受講生へのアーカイブ配信を行っております。各講義の配信状況については、別紙をご覧ください。一部、著作権の都合であったり、お恥ずかしながら録画エラーにより、配信されていない講義がございます。該当の科目については、希望者に対し講義資料を配布する対応を行っております。 次に、④事務局からの連絡ですが、今年度より事務局からのお知らせのポータルサイト上での掲示と登録メールアドレスへの配信を行っております。 ６月３日の台風接近時に、２年生・法律の受講生に対し、講義を延期する旨メールで周知いたしました。その結果、受講生142名のうち当日誤って来館した受講生は３名のみという結果となりました。 次に、⑤資料配布・提出ですが、こちらについては令和７年度卒業式から運用を開始し、卒業生に対しアカウントを付与し、卒業写真や卒業レポート集を配布しております。 次に、（２）受講生への支援といたしましては、ポータルサイトの操作に不安がある受講生に対し、説明会を３回実施し、３回で延べ 72 名の受講生にご参加いただきました。そのほか、スマートフォンや PC を所有していない受講生につきましては、従来通り紙で申請を受け付けており、令和８年度申込者のうち、３名が紙での申請となっております。 次に、項番２「卒業記念文集及び卒業研究レポート書式の指定について」をご覧ください。 ＤＸ推進に伴い、令和７年度より卒業記念文集及び卒業記念レポート集につきましては、データでの提供に変更させていただいております。電子化に伴い、レポートの提出方法についても原則データでの提出させていただきましたところ、受講生間でのレポートの体裁にばらつきがみられました。 つきましては、令和８年度卒業生より、卒業レポートの書式を指定させていただきます。書式については別紙をご覧ください。指定書式は、よりアカデミックなレポート集を目指し、学術論文で一般的に使用されている２段組みの形式とさせていただきます。ＰＣを所有していないなど、やむを得ず手書きでレポートを作成する受講生につきましては、罫線の幅を広げた書式での作成とさせていただきます。 資料６についての説明は以上となります。
（議長）	資料６の説明が終わりました。ご質問、ご意見のある方はご発言ください。
（委員）	ＤＸの推進について、大変素晴らしく効率化されているのかなと見ていたのですが、資料３の７ページの自由記述のところだったと思うのですが、まだＰＣに不慣れの方からアナログも残しておいてほしいだったりとか、若干まだ戸惑いの声が見受けられるような気がいたします。自由記述なので、意見としては少数なのかもしれませんが、色々な支援もされているがまだ少し理解が追い付いていない部分があるという理解でよろしかったでしょうか。
（事務局）	ＤＸ化といった形で進めさせていただいた中で、操作が難しいという方からご

	意見もいただいているところでございますが、サポートをさせていただきながら進めさせていただければと思います。それでも厳しいという方がいらっしゃると認識しておりますが、これを一つの学びの機会として、ＤＸ化や端末の操作について皆様のご理解を頂戴しながら進めさせていただきたいと考えております。 　また、先ほど資料６の説明で申し上げたとおり、端末をお持ちでない方については、紙での対応という様な形を引き続きとらせていただきたいと思っております。
（委員）	ありがとうございます。恐らく過渡期かと思いますので、あとしばらくしたら落ち着いてくるとは思うのですが、引き続きフォローといいますか、支援をお願い出来たらと思います。
（議長）	他に何かありますでしょうか。
（委員）	２年生の令和７年度時集の場合、私が調べたところ 23%くらいの方が手書きで「卒業レポート」を書いているようです。丁寧に書いている人や、縦書きの人もいますので、字の大きさや行間等はこの形が良いのかはわかりませんが、一つの形にまとまるというのはとてもいいと思います。
（委員）	私は昨年度田中先生に発達心理学で非常にお世話になり、研究を存分にしました。今年度２年目で文化文学コースで哲学を履修しているのですが、先生の教養が非常に深く、知識が豊富なものですから、話のテンポが場合によっては早く、すべてを書ききれないところがあり、アーカイブで復習をして、足りない点を補充しているので、アーカイブは非常にいい制度だと思っています。残念ながら、１回だけ配信が出来ない回もありましたが、制度としては復習するのに非常にいいなと思いました。 　あと、卒業論文については昨年の大学院では文字数などの大枠は決まっていましたが、二段組の学術的なものではなかったのですが、ここまで学術的にレベルを上げるというのは何か理由があるのかと思いますが、そちらについてお伺いしたいと思います。
（事務局）	はい。こちらについては、先ほども申し上げた通り、学びの機会ということで、論文の作成を通してパソコン等の機器の操作に慣れていただきたいというところと、書式を揃えることによって、研究レポートというものが全体を通して見やすくなり、色々な方がご覧になったときに見やすくなるというところもありますので、今回書式を揃えさせていただいて、皆様に作成していただく形でお願いしたいなと思っているところでございます。
（委員）	昨年度までは１段だったので、２段というのはなかなか難しいが、学術論文の形に近づけていったのでしょうか。
（事務局）	アカデミックな方向で考えていきたいという思いもあり、その一つとしてこのような形式で揃えさせていただきました。
（委員）	分かりました。ありがとうございます。

（委員）	学術論文だからといって二段組かというと、実は学会によって違います。二段組みは不慣れな人が書くのは大変だと思います。そこに労力を使うよりも、中身に労力を使った方がいいのではないかと思います。 それと、些末な意見になりますけれども、題名のところに〇〇〇に関する研究と書かれています。何々に関する研究とか、何々に関する一考察みたいなものは余分な言葉だという指摘もありますので検討をお願いします。 それと、「はじめに」、「〇〇の活用」、「〇〇の考察」、「まとめ」で、最後に「データ、引用」になってます。 この辺りも、このように示してしまうと、皆さんこのまま書くかもしれないので、例えば「はじめに」、「問題の所在」、「考察」、「まとめ」と進んでいって、最後に「おわりに」を書くっていうのが卒業論文などでは一般的だと思います。書式を決めることについては非常に良いことだと思うので、書式の中身を精査していただくというところと、二段組みか一段組みかというところももう一度ご検討いただけるとよいと思います。
（委員）	大学院を受講して今年度提出する立場としては１段組みの方がありがたいと思います。それから、基本的な形式は決めてもレイアウトはフリーにしてほしいですね。
（事務局）	書式につきましては、いただいたご意見を踏まえて検討を進めさせていただきたいと思います。書きづらいというご意見も伺いましたが、形式にまとめるというところも一つの学びというところでお願いしたいと思います。例文の書き方については、意見をいただいたとおり記載してしまうとそのとおりに作成してしまうというところもございますが、示すことでこういう書き方もあるんだなというところで記載させていただいております。案内の仕方なども含めて、検討してまいりたいと思います。ありがとうございます。
（委員）	関連するところで、書式に関してになるんですけれども、今回、レポートの統一感を出すことを目的にという風に仰っていたかと思うんですけれども、実際にどのくらいまで統一をさせるのでしょうか。例えば、学術分野によっては全然書き方が違ったりとか講座によって、例えば先生からはこういう書き方を指示されてきたんだけれども提示されている書式と違う、という様な事もあったりされるかと思いますので、どのくらいの幅まで自由度が認められるのかということも併せてご検討いただけると大変ありがたいと思います。 実際に昨年度担当させていただいた際には、自由にと言い過ぎると、今度は何をしていいかわからないという方もいらっしゃったりするので、なんとなくある程度の枠組みは欲しいのかという気持ちもありますが、かといってあまりガチガチにすると今度は色々と制限されてしまう印象もありましたので、一意見として発言させていただきました。
（事務局）	ありがとうございます。ご意見を踏まえて、今後のお示しの仕方について考えていきたいと思います。
（議長）	よろしいでしょうか。それでは、続きまして、資料７「令和９年度板橋グリーンカレッジ大学院のコース編成について」の説明を事務局からお願いします。
（事務局）	それでは、資料７をご覧ください。

	令和９年度板橋グリーンカレッジ大学院のコース編成についてご説明させていただきます。 まずは項番１をご覧ください。こちらは、過去３年間の各コースの受講状況をまとめた表となります。過去３年間の受講結果では、健康福祉コースの受講者数が平均 11 名と、他のコースと比べて受講者数が少ない結果となっております。 この結果を受けまして、令和９年度につきましてはコースの再編を検討しております。 再編案につきましては、項番２をご覧ください。令和９年度につきましては、板橋学や区の政策に関わるテーマを扱うコースの新設を検討しております。 また、現行の大学院では、卒業要件として卒業レポートの提出を設定しております。再編するコースにつきましては、卒業要件を卒業レポートに代わる成果物の提出とすることを検討しております。 資料７の説明は以上となります。
（議長）	資料７の説明が終わりました。ご質問、ご意見のある方はご発言ください。 よろしいでしょうか。それでは、続きまして、協議事項の説明を事務局からお願いします。
（事務局）	それでは、資料８をご覧ください。 令和９年度板橋グリーンカレッジカリキュラム案についてご説明します。 令和９年度につきましては、２年生で科目の変更を予定しております。具体的には、⑫「デザイン」と、⑱「ＩＴ」の新設を予定しております。どちらも今年度の１年生で新設した科目でございます。２年生の科目につきましては、基本的に１年生で学習した内容をさらに深めることとしておりますので、令和９年度につきましては、このようなカリキュラムを提案させていただきます。 資料８の説明は以上となります。
（議長）	協議事項の説明が終わりました。ご質問、ご意見のある方はご発言ください。
（委員）	この前事務局と打合せをした際に少しお話をしたんですけれども、朝ドラとか大河ドラマというのは非常に人気があるんですね。それで、例えば来年の大河ドラマはジョン万次郎ですか。このようなテーマとくっつけて講座をいくつかやったりすると興味を持って聞いてくれる人がいるかもしれません。少し参考にしていただければと思います。
（事務局）	ありがとうございます。私の前の部署では渋沢栄一がちょうど大河ドラマでやっていた時期に、板橋区に養育院があったというところで、そういうテーマを扱って、非常に多くの方に講座を受けていただいたという経験がございますので、ご意見を踏まえて今後検討を進めて参ります。
（委員）	人寄せパンダという言葉がありますが、講師の中に世間で名前が知られている人物などを入れてみることは考えられませんか。この人の話なら聞きたいという方がいらっしゃるかもしれません。
（事務局）	ありがとうございます。お恥ずかしながら区の講師謝礼には規定があり、そのような方をお呼びするのはなかなか難しいという実情がございます。講師の方に

	はボランティアの様な報酬でご登壇いただいているというところもございますので、一つのご意見として受け止めさせていただきます。
（委員）	毎年板橋区の顕彰というのがあり、私は大東文化大学のテコンド一部の部長をしていて毎年行っているのですが、著名人の方もいるので、その方たちに声をかければ喜んでやってくれるかもしれないので、話をしてみるといいかもしれません。
（事務局）	ありがとうございます。いただいたご意見を踏まえて、今後の講師選定について検討を進めさせていただきます。
（議長）	他にご意見等ございませんでしょうか。 それでは、協議事項についてこれで承認とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。 それでは、本日の協議会は、以上で終了とさせていただきます。